世界の農業機械・資材トレンド

ヨーロッパの農業機械テストの権威、
ドイツ「profi」誌に掲載された世界の農業機械情報。

空飛ぶ4輪バギー
From U.S.A.

分離し、通常の走行に移行できる。

この「エアリアルATV」は13,000ドル（約141万円）から15,500ドル（約168万円）で販売され、オプション装備によって価格が異なる。全面的な生産と販売は、2005年3月から4月にかけて。



4輪バギーが空を飛ぶ。着地後は、パラシュートを外すだけで地上走行が可能。まさに現代のチキチキバンバン号。



貯水池管理の新兵器ブイ
From Australia

から送られる情報を別な場所に転送し、水深をミリ単位で記録できる。これによって、どんなダムや貯水池であっても、水深の情報が24時間、常に転送されることになる。

持ち運びが楽で簡単に使用できる点が「エリック」とこれまでの水量測定ユニットとの違い。

クイーンズランド州の自然資源・鉱山省のスチュアート・ウェイド氏は、「このブイは、貯水池から離れたところで水を使う人に、貯水量のデータを知らせる技術なのです」と話す。「エリック」は貯水量の推移を正確に示すことができる測定器なのだ。

Land train

サトウキビを運搬するトラクタ
From South Africa

サトウキビ栽培の最大の課題の一つが、圃場でいかに手早く作物を積み込み、されにできるだけ新鮮な状態で効率よく製糖所へ運ぶか、という輸送の問題だ。

この問題に対処するため、マラウィ共和国のイロヴォ・シュガー社では、トラクタが荷台をけん引するユニトランス車列を利用している。同社の取締役ブレット・スチュワートソン氏は、この方法が同社のグループ全体の中で最も効率よくサトウキビを運搬できるやり方だと話す。

同氏は作物をスピーディーに運搬する手段にユニトランスを選び、おかげで圧搾した新鮮なサトウキビからはより多くの原料糖液が取り出せると、高く評価している。



ユニトランス車両が引く荷台は6台で、50ｔ以上の積載が可能だという。車列をけん引するのは、メルセデスベンツの「OM906LA」エンジンを搭載した「ベル2360D」の4輪駆動アーティキュレートトラクタ（前後輪が同一径・同一軌跡のトラクタ）で、出力は222馬力ある。

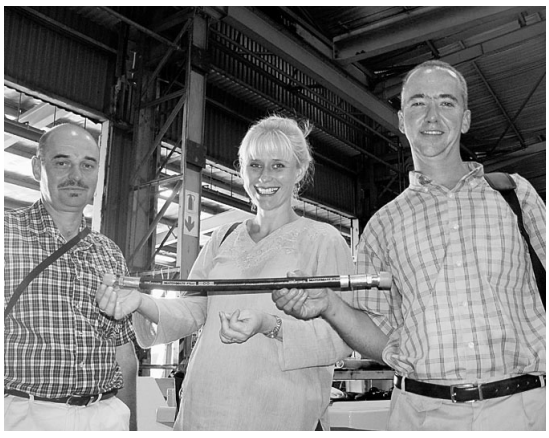
マラウィ共和国のンチャロ農場で、積み込みを行うユニトランス車両。けん引トラクタのエンジンは、222馬力メルセデス・ベンツエンジンで、6段変速のZFトランスミッションを備えている。

Everyone's a winner

みんなが喜ぶリサイクル
From South Africa

油圧ホースの両端に付けるダスト防止のプラスチック製カプラをリサイクルする新プロジェクトによって、南アフリカのエンパンゲニ近くのススカニ特殊スクールの生徒に、就労の機会が生まれた。

大型ダンプカーやトラクタ、建設機械の製造メーカーのベルエクイップメント社では、昨年、25万個の使用済みの油圧ホースカプラが出た。これらのカプラは生物分解せず、たいていは廃棄され多額の費用がかかっていた。



左から、ジャック・ブルン（ベル社）、マーシー・コムブリンク（ススカニスクールの生徒）、ウェイン・ディビス（イートン・アエロクイップ社）。

現在では廃棄はされず、ホースを納入しているイートン・アエロクイップSA社がベル社にバケツを設置し回収するようになった。バケツが満杯になると同社のドライバーがバケツをススカニスクールへ運ぶ。ここでは、生徒たちがカプラを洗い、大きさ別に分別し、再度ひと包みずつパックする。

みんなが喜ぶシステムだ。ゴミが減って環境にやさしく、カプラのリサイクルで両社ともコスト削減が図れる。ススカニの生徒が職業訓練を受けられることも喜ばしい。

©profi10/2004,3/2005 Munster Germany　www.profi.com

tractors in forest

森林で活躍するトラクタ
From Finland



フィンランドの森林で使用するトラクタには、要求される一定の仕様がある。

第1に、通常のラジアルタイヤではなくクロスプライタイヤ（パパイヤタイヤとも呼ばれる。タイヤ内部のコードが側面から見た時×状の網になっている）であること。第2は、トラクタの下側が補強されていることだ。運転室内については、180度程度、運転シートが回転し、リアウインドウを閉じてもオペレータの足との間にローダの制御装置が十分収まる広さが必要となる。

林業用トラクタのマーケットで最も人気があるのは、回転シートが標準装備されているヴァルトラだ。加えて、販売台数の10%がリバースドライブ（リアウィンドウ側にもハンドルが付く）仕様であることも人気の秘密だろう。





フィンランドの林業用トラクタは、リバースドライブ仕様が一般的。材木を扱う特別な作業機を装備しており、後ろ向きで作業することが多いため。

他のメーカーで言えば、ジョンディアの3～4%が「林業用仕様」で販売されており、「6320／6420SE」のモデルが特に売れている。ニューホランドの「TL-A」とケースインターの「IHTVX」も同様に林業用トラクタとして使われている。

Plans in place for 2005

2005年の販売計画
From Ukrain



ウクライナのハリコフ社は、このほど、グルジアのクタイシ自動車製造所（KAP）とジョイントベンチャーし、ハリコフ社製のパーツを使った「XTZ-2511」トラクタを150台、グルジアで販売する計画を進めている。

この計画が成功を収めれば、アゼルバイジャンやアルメニアまで販売を拡張する予定。4輪駆動の「XTZ-2511」は、ロシア製の「D-120」エンジンを搭載し、時速30kmの最高速度を誇る。

一方、ハーベスタについては、カーソンコンバイン製造所が、2005年、「スラブティッチ」ハーベスタを毎月20台、つまり年間240台生産することを目標にしている。これは、2004年の生産計画が300台だったにもかかわらず、130台にとどまったことを受けての下方修正。しかし、この製造所では、採算をとるために、年間300台の生産が必要なのだ。



ハリコフ社は、グルジア企業との合弁事業によりトラクタの販売増を見込んでいる

When ATVs leave the ground...



アメリカで昨年開かれた農業展示イベントで、空飛ぶ4輪バギー（ATV）が来場者から大きな注目を集めた。

この「エアリアルATV」は、インディアナ州のバカイ・アヴィエーション社が開発し販売を予定しているもので、2人乗り4輪バギーを利用している。

エンジンは、300ccのバイク用エンジンで、フレームには33cmのコイル・サスペンションを備えている。トランスミッションは遠心クラッチ式で、地上での最高速度は時速56km。

空中では、地上走行用エンジンとは別に150馬力の航空エンジンで後部のプロペラを回転させ飛行する。最高速度は同じく時速56kmで、最高飛行高度は3,000m。燃料が満タンで、3.5時間の飛行時間、距離にしておよそ100kmの飛行が可能。

地上に下りた後は、素早くパラシュートを

Eric buoyed



「エリック」と名付けられたブイが、オーストラリアクイーンズランド州の貯水池管理で活躍している。

太陽光を動力にするこのブイは、ブイから伸びるアンカーの先に付けられた水圧センサ



スチュアート・ウェイド（左）とトレボール・ライアンは、「エリック」を利用してクイーンズランド州内の貯水池の水量をモニタしている。